

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|----------------------------|---|----------|
| ○事業所名 | きりりはーと永国 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 2月 1日 ~ 2025年 3月 15日 | | |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 9 | (回答者数) 3 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 2月 1日 ~ 2025年 3月 15日 | | |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 7 | (回答者数) 6 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 3月 17日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 発達心理学を基にした体育(運動療育)を中心に身体能力の向上と社会適応を目指した療育を行っていること。 | 運動は苦手な子が多い中で、前向きに取り組めるよう職員の励ましなどの声かけを多くしている。スモールステップでできることを増やし、成功体験を重ねることで自己肯定感の向上を図れるようサーキットの内容を工夫している。 | できるようになったことをみんなの前で発表する時間を作ることで、人前に出る機会を設けていきたい。人の発表を見ることで、相手を意識して生活できるようにし、コミュニケーションの幅の広がりにも繋げていきたい。 |
| 2 | 将来の自立生活に向けた、日常生活に必要なスキルの練習。 | 視覚で分かりやすく一日の流れを掲示して確認することで見通しをもって行動できるようにしている。着替え・手洗い・うがいなどの身辺自立に向けた活動をプログラムの中に設けることで、日々の活動を通して繰り返し身辺自立に向けた活動ができている。 | 幼稚園から小学校にあがる年長さんの時期は、学校生活に向けた小集団の活動や、イスに座る、机で活動するなどの時間を設けることでよりスムーズに小学校生活に適應できるような時間を作りたい。 |
| 3 | | | |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|--|
| 1 | 児童発達支援から継続して放課後等デイサービスの利用がしっかりできると良いが、人数の都合で難しいことがある。 | 小学校に通っている子どもが多く、ある程度その日の送迎ルートなども固まっている関係で下校時間のお迎えが難しい場合もある。 | 待機児童としてお待ちいただくか、事業所を増やすしか現状の解決方法が見当たらない。 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |